

株式会社K2インターナショナルジャパン 社会インパクト評価の取り組みを受けて



私たちは、1989年より不登校・ひきこもり・発達障害など、
生きづらさを抱える若者達の自立就労を支援し、
共に生きる場を作ってきました。

貴方の周りに必ず居る若者たち。
理解しづらい行動、自己表現が苦手で、傷つき、引きこもるか、
病気に逃げ込むしか無い彼ら。
生きづらさの中、もがき、苦しみ、自分のみならず周囲をも傷つけてしまう…
そんな若者に対し、既存の教育や福祉サービスと共に連携しながら、
民間ならではの力で支援していきます。

◆本評価概要

- ・実施期間:平成28年7月～3月末
- ・対象事業:湘南・横浜若者サポートステーション

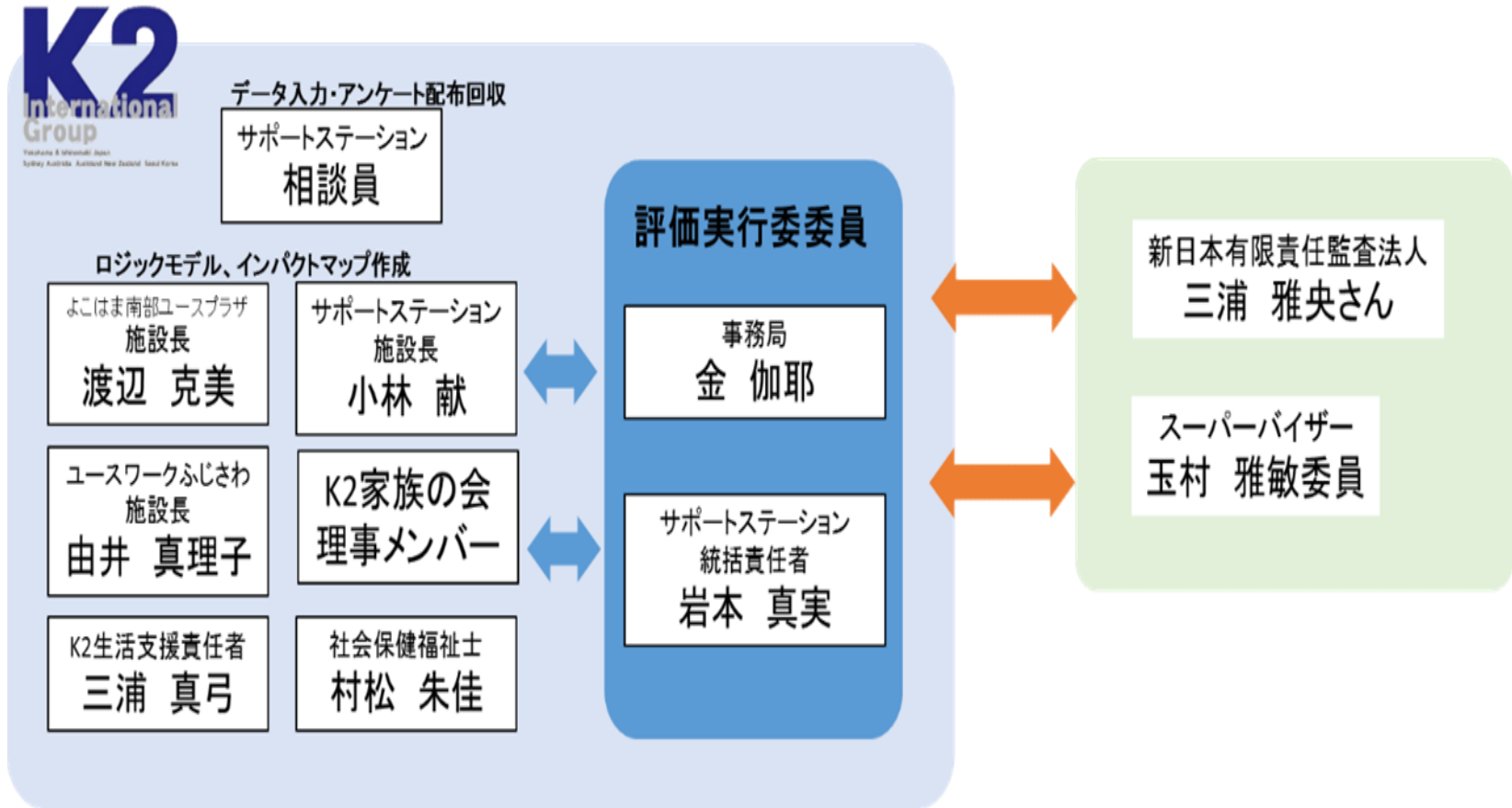
・本評価の背景・目的

▶厚生労働省が定めるサポートステーションの支援対象者には、「当事者の家族」は含まれていない

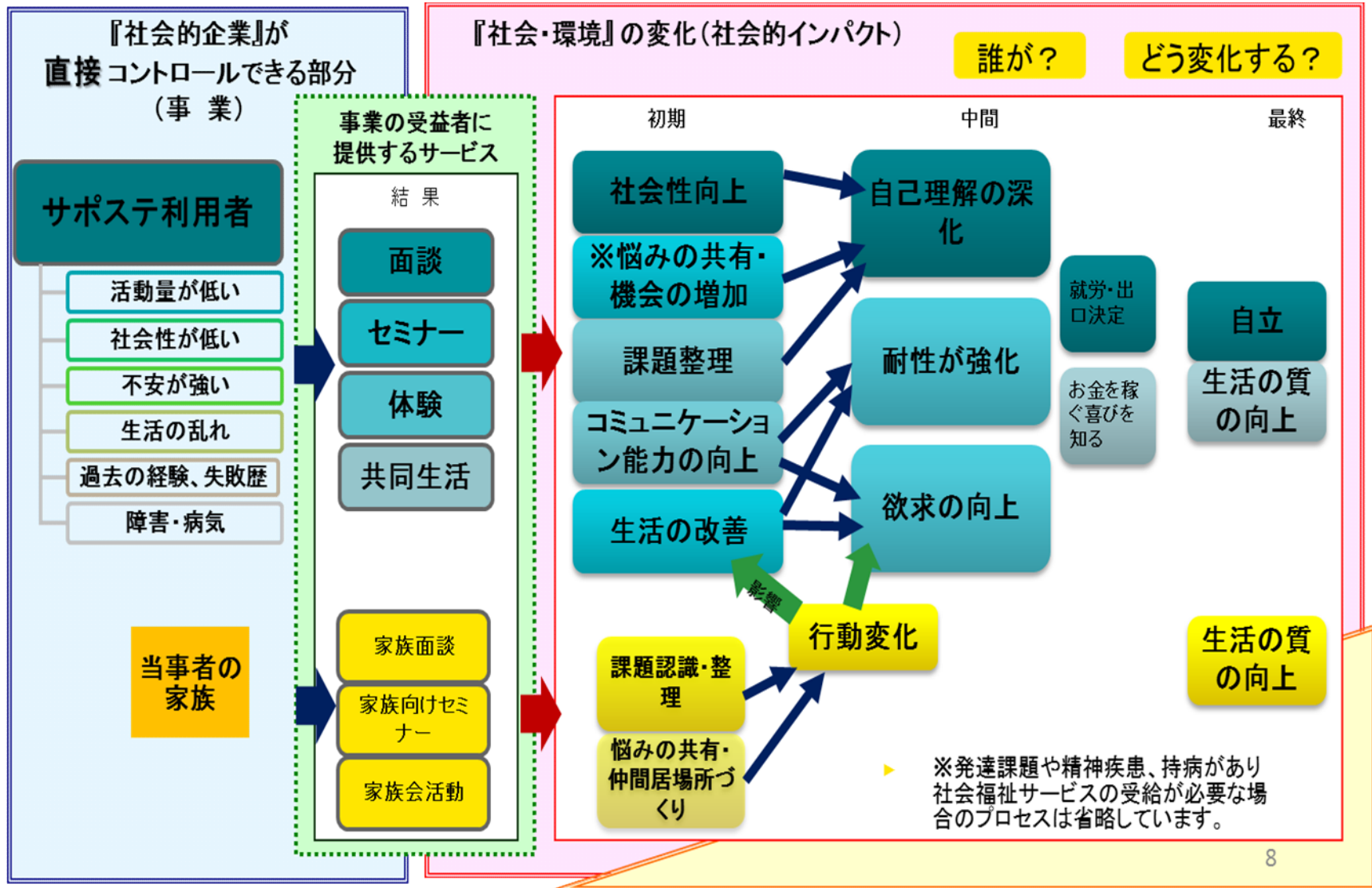
▶現場の実感として、本人の意識や行動変化には「家族の理解と支援」が重要であるという認識がある

▶支援対象者のデータを収集し、「家族の支援への関与の有無」による比較を行う事で、K2が独自に行ってきた「家族支援」の有効性を検証したい

・実施体制



・ロジックモデル



・データ収集・分析方法 ～データ収集方針～

1. 利用者活動実績データ **▶既存のデータ管理システムに調査項目を追加設定。**

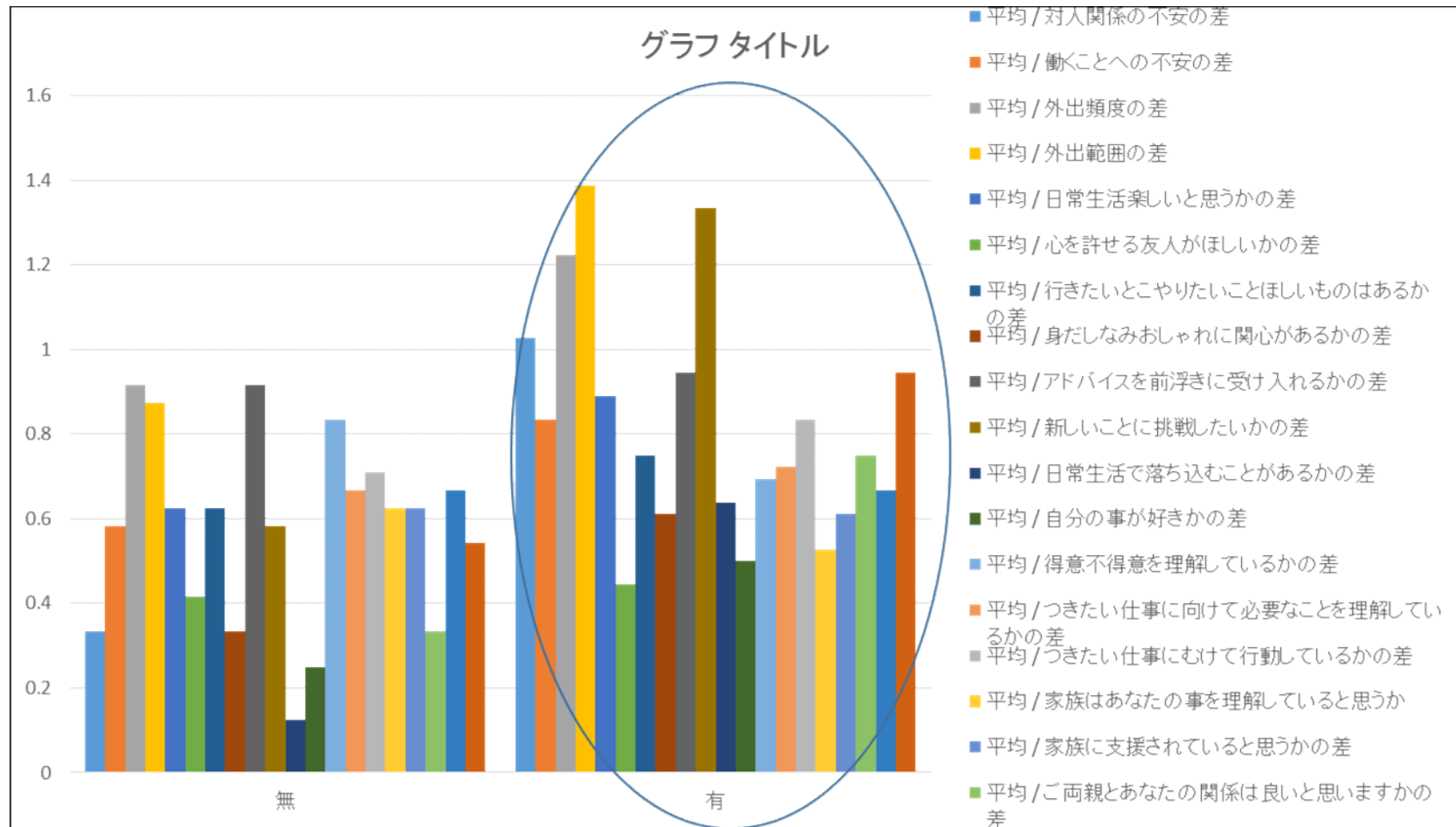
対象者	27年度サポステ新規登録者で、3ヶ月以上支援を継続している当事者141名
実施期間	平成28年10月
調査項目概要	ロジックモデルの初期～中間アウトカムに設定した各項目について第三者からの視点で整理 ①属性情報(性別、生年月日、障害者手帳の有無等) ②インテーク時情報(外出機会、生活リズム、家族関係、社会スキル等) ③経過記録情報(インテーク時と同様の項目)
備考	セールフォースのクラウドシステムに支援者が情報を入力

2. 利用者向けアンケート **▶各設問、「初回来所時」と「現在」の2時点で確認。**

対象者	上記対象者141名に配布し、回収できた68名
実施期間	平成28年11月
調査項目概要	ロジックモデルの初期～中間アウトカムに設定した各項目について、本人主観でしか分かり得ない成果を中心に設問を設定。全21問から構成(相談の対象者、対人関係不安、外出頻度、身だしなみ、自己肯定感、就きたい職業イメージの有無等)
備考	アンケート調査票は支援者から手渡しで配布・回収 利用者活動実績データと紐付を実施

・データ分析結果ピックアップ

各項目の改善幅の比較(家族支援有無)～アンケート～



▶ 全体的に、「家族面談有」の層の方が、改善の幅が大きい。

▶ 有意差が認められたのは、「対人関係への不安」「新しい事への挑戦欲」「日常生活の落ち込む事があるか」の項目。

◆最終レポートまとめ概要

データ分析結果について

- K2の支援によるbefore-afterの成果は明らかであった
- 家族支援が特に有効となる層が見えてきた

評価についての振り返り

- 評価の各時点で専門的な知識・助言が必要不可欠であった。
- 評価設計は丁寧に作り込む必要があり、ここが甘いとデータ分析時の苦労が大きかった。
- 評価にはなるべく多くの関係スタッフを巻き込むことによって、納得の行くものができる

全体まとめ

- 本事業を通して、社会的企業の実践者として様々な学びがあり、スタッフ間のチームワーク形成、業務フローの再構築に繋がった
- 「現場感覚」の言語化・可視化・数値実績化の必要性を改めて感じた。

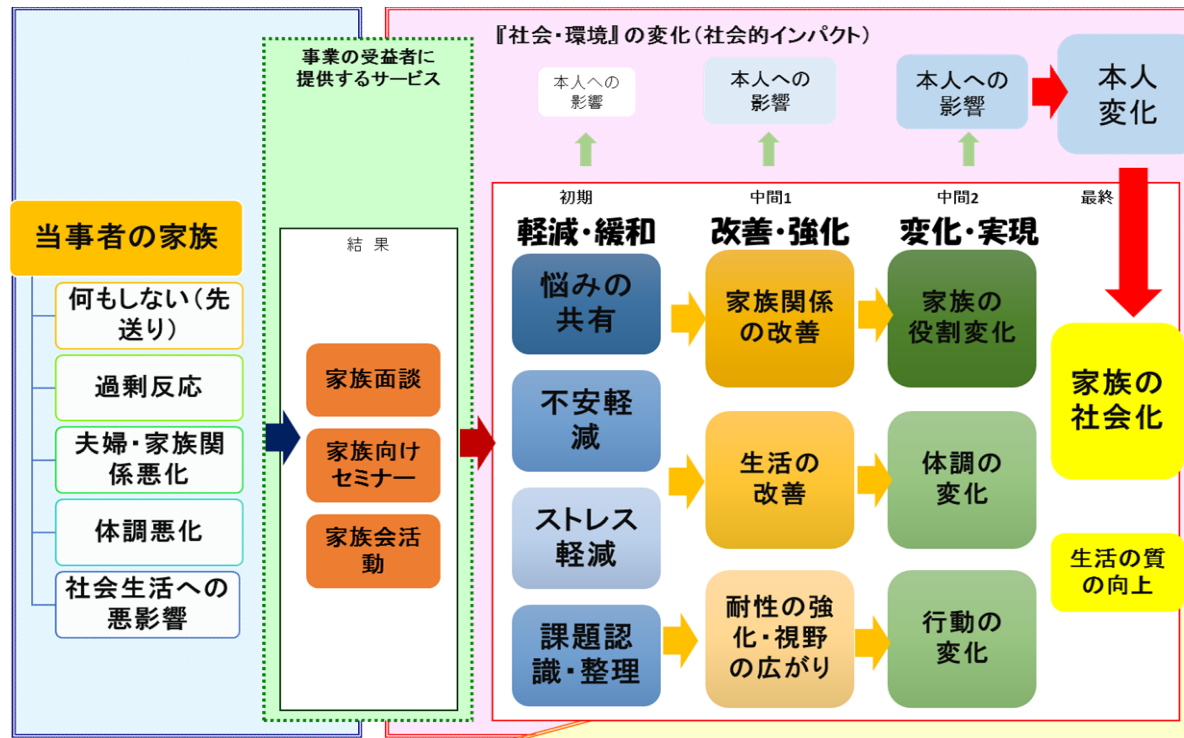
・取り組みを受けて

★セールスフォース(データベース)の項目見直し

★当事者向けの冊子作成(中)

★内部スタッフ・当事者／家族・関係機関などからの反響

★家族主体の支援ロジックモデル作成⇒分析に向けて



・活用事例：各種発表・勉強会の資料・裏付けデータとして

